

2022年度研修航海 募集要項

■研修目的

海外研修航海は、本学の建学の精神に則り、全国のキャンパスに在籍する学生から、広く研修学生を公募・選考し、本学所有の海洋調査研修船「望星丸」を使用して諸外国を訪問し、海外の諸文化・諸事情に触れ、国際的な視野に立った人生観・世界観を確立させると共に、船内という限られた生活環境の中で、教職員・仲間との共同生活を通じて協調性を養い、より豊かな人間形成をはかることを目的として実施してきた。過去2年間は実施を見送ったが、今年度、コロナ禍で実施可能な国内航路により再開する。

■募集概要

- 応募資格：東海大学の学生
- 募集人数：研修学生84名（留学生若干名を含む）
- 研修期間：2023年2月19日（日）～3月20日（月）（30日間（予定））
- 事前研修：2023年2月16日（木）～18日（土）（2泊3日）、於：清水港停泊中の望星丸（開催地までの交通費は自己負担）※12月中にオンライン事前研修を行う予定。なお、事前研修に参加しない場合は、原則として研修航海への参加資格を取り消します（※補講受講者は、補講が優先されるので、事務局に問い合わせること）。また、研修に対する取組みが不適切と認められる場合も参加を取り消すことがあります。
- 使用船舶：東海大学海洋調査研修船 望星丸（2,174トン）
- コース：清水（静岡県清水区）→小笠原（東京都小笠原村父島）→石垣島（沖縄県石垣市）→種子島（鹿児島県西之表市）→八代（熊本県八代市）→広島（広島市）→新宮（和歌山県新宮市）→横浜（神奈川県横浜市）
- 参加費用：250,000円（留学生250,000円）※①自宅→出港地及び帰港地→自宅の交通費は含まれません。※②燃料価格の動向によっては燃油サーチャージを徴収することがあります。
- 申込期間：2022年7月下旬～10月24日（月）
- 参加申込：研修航海ウェブサイト（<https://www.u-tokai.ac.jp/campus-life/challenge/overseas/>）→「応募・募集要項」からお申込みください。

※内容は変更になる場合があります。Webサイト等で最新の情報をご確認ください。

■参加申込後の日程等（予定）

- 選考：研修学生は、参加申込者の中から選考により決定します。
- 面接日：10月頃を予定。場所や日程は所属校舎のカレッジオフィスからお知らせします。
- 選考方法：選考は、面接により本研修への志望動機をはじめとする応募者の意識を確認するとともに、日頃の学業成績・出席状況及び提出書類（小論文を含む）を判断材料とします。さらに、船という特殊な環境で長期間過ごすことを考慮し、参加者の生命を守り航海の安全を確保するという観点から、健康調査シート、健康診断書などの結果を加味し、総合的に選考します。
- 選考結果発表日：2022年12月14日（水）
- 参加手続期間：2022年12月14日（水）～22日（木）
- 参加手続：必要書類を指定場所へ提出し、参加費用250,000円を手続期間内に納入してください。納入後、自己都合により参加を取り消す場合は、原則として以下の基準により返金を行います。※但し、振込手数料は本人負担。
 - ◇参加手続期間内（参加許可発表日当日～参加費納入・必要書類提出締切日当日）…全額返金（実費は除く）
 - ◇参加手続締切日翌日～12月26日（月）…参加費用の90%返金
 - ◇12月27日（火）～1月6日（金）…参加費用の70%返金
 - ◇1月7日（土）～1月13日（金）…参加費用の50%返金
 - ◇1月14日（土）～…返金なし
- 旅行保険：主催者が以下の国内旅行保険を参加者に対して加入しますが、各自で別途、任意の保険に加入しても差し支えありません。
 - 死亡・後遺障害…1,000万円 / 入院日額…5千円 / 通院日額…3千円 / 賠償責任（免責金額（自己負担額）0円）…3,000万円 / 携行品損害（免責金額（自己負担額）3,000円）…10万円 / 救済費用…100万円
- その他：◇参加申込後の日程等、詳細に関しては随時通知します。
 - ◇天候等の事情で研修日程やプログラム等が変更になる場合があります。特に卒業対象者はその旨を理解したうえで申し込んでください。
 - ◇病気その他いかなる理由にせよ、大学が計画した研修コース以外で帰宅した場合の費用は、自己負担となります。

■単位の認定

東海大学の学生は、①事前研修への参加及び課題の提出、②洋上研修全日程への参加、③洋上研修修了後の課題の提出及び修了証の受け取り、の3要件を満たすことにより、自己学修科目「研修航海実習（仮）」4単位が付与されます（単位の付与は1回のみ）。

今だからこそ、会いにいこう。
新しい自分に、日本に。



事前研修
2023 2/16木 ▶ 2/18土

研修期間
2023 2/19日 ▶ 3/20月 30days (予定)

応募締め切りは2022年10月24日（月）まで

2022年度 東海大学 研修航海

キラキラ眩しい大海原と底抜けに青い空の下、船上とともに笑い、ともに汗をかき、時には夢を語り合おう。国内の港を巡りながら仲間とともに過ごす貴重な30日間の航海は、キミの未来への可能性を広げ、大きな成長のきっかけになることでしょう。

寄港地 清水 ▶ 小笠原 ▶ 石垣島 ▶ 種子島 ▶ 八代 ▶ 広島 ▶ 新宮 ▶ 横浜（予定）

参加費用 250,000円 ※寄港地における地上研修、航海中での全食事の費用が含まれます。

応募のお問い合わせは、カレッジオフィスまで 主催／東海大学 事務局／ビーワンオフィス（船舶担当） ☎0463-58-1211



研修航海
Website



研修航海
Facebook



研修航海
Instagram

真の平和は教育から始まる



団長 齊木 ゆかり

まず、東海大学2022年度研修航海に興味を持ってくださったあなたに感謝します。私たちは日本という島国に住んでいます。日本の周囲は全て海。ところが、私たちは普段は、海を、水を、自然の存在を忘れた生活を送っています。朝起きて、大学へ行って、授業が終わったら部活・サークル・バイトへ行って、帰って、御飯食べて、宿題して、ゲームして、寝る。波音を聞いたり、磯の匂いを感じたりすることはありません。ですから、実は自分が海に囲まれ、海の恩恵を受けて生きているとは思っていません。

また、反対に、私たちがどんなに豊かな緑に囲まれ、自然に恵まれ、豊富で安全な水を享受していることも忘れてます。私もその一人です。私の研修航海歴は第33回(2001年度)と第38回(2006年度)です。私は洋上生活で、「緑色渴望症候群」になりました。一週間、海しか見えない生活を送っていたら、むしろに生きた緑色のもの、つまり木や草や花が見たくなったのです。ある日、キャプテンの船内アナウンスが耳に入りました。「スターボード・サイド3時方向に〇〇島観測できます。」その瞬間脱兎のごとく船室を飛び出して、デッキに駆け上がりました。遠くに薄ぼんやりと小さく島が見えました。おお、島だ。緑だ。訳もなく嬉しくて、見入ってしまいました。どんどん小さくなっていく緑、ついに見えなくなると、とても切なく感じました。その時、当たり前木が見えて、当たり前花が咲いて、当たり前鳥のさえずりが聞こえたあの日は、当たり前ではなかったと知りました。そして、自分は今までなんと豊かな日々を送っていたのだろとしみじみ感じました。

東海大学研修航海が2年間のブランクを越え再開する理由は、水の上で、波を感じ、海の上から、日本を見て、現状と課題を知り、私たちが学ぶ機会を得ることにあります。今だからこそ、それをする意味が大いにあります。当たり前を疑い、現状を知り、問題解決の方法を探る。それをする場合は、旅客船として遠洋国際航海の資格をもち、海洋探査から情報処理までを洋上で行う機能を持つインテリジェントシップ、「望星丸」です。「望星丸」は海のキャンパスとして、海洋教育、国際活動の役割を果たしてきました。「真の平和は教育から始まる」、創設者松前重義博士の言葉の具現化を2023年、海から再開しましょう。

団役員メンバー



団 長	齊木 ゆかり	語学教育センター
副団長	田巻 以津香	体育学部生涯スポーツ学科
団役員1 (医師)	本多 ゆみえ	医学部医学科総合診療学系
団役員2 (看護師)	高木 博子	看護部
団役員3 (教員)	日比 慶久	教養学部
団役員4 (教員)	松前 義治	工学部応用化学科
団役員5 (教員)	アシュクロフト ロバート ジョン	国際文化学部国際コミュニケーション学科
団役員6 (教員)	鳥居 徹也	文理融合学部人間情報工学科
団役員7 (職員)	村西 純斗	サイエンステクノロジーカレッジオフィス
団役員8 (職員)	原木 岳史	グローバルシズンカレッジオフィス
団役員9 (職員)	稲垣 花菜	スルガベイカレッジ静岡オフィス

先輩からのメッセージ

研修航海に行ってみたいけど、まだ迷っているアナタの背中を優しくフッシュ！過去に参加した先輩からのメッセージです。

自分自身の"勇気"に感謝。

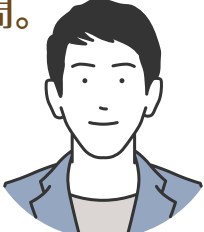
研修航海での船旅は、間違いなく一生の思い出になります。何かやり遂げたい人、自分を変えたい人、一生の友達を見つけない人、魅力のすべては言葉では伝えきれないので、少し勇気を出して、ぜひ自分の目で確かめてください。あとできっとその勇気に感謝すると思います。



▲健康学部
健康マネジメント学科
Mさん

自分を変える、一生モノの時間。

研修航海への参加は、自分自身の成長のきっかけになります。自分を変えたい！今の生活に刺激が欲しい！そんな風に、船に乗る前の私と同じように思っているなら、ぜひ一歩踏み出してほしいです。仲間と過ごす船上での一生モノの時間を経験すれば、きっと大学生活が変わります！



▲文化社会学部
広報メディア学科
Oくん

Port of call 寄港地

※寄港地は予定です。
スケジュール等は変更になる場合があります。



50th アルバム



登舷礼



船内行事



出港前の記念撮影